GIGAスクール構想を見据えた課題の整理と体制の土台づくり

－　守口市におけるICT教育の推進　－

学籍番号　209337
氏　　名　西村　嘉都美
主指導教員　木戸　哲也

１．研究の背景

筆者は，学校現場に役立つ研究がしたいという思いから，令和2年度に教職大学院に入学した。必然的に，感染症拡大によるGIGAスクール構想の前倒しに伴う変化について，学校実習（現任校実習）を通してその実態を知ることとなった。かつての同僚や管理職が子どもたちの学びの保障に奔走する姿を目の当たりにする中，まずは錯綜する情報を整理し，校内の教職員が教育活動をしやすい体制をつくることが先決なのではないかと考えるようになった。

本教育実践研究の目的は，守口市の公立学校を対象とした，GIGAスクール構想を見据えた課題の整理と体制の土台づくりを行うことである。

２．現任校の現状

現任校は，平成28年4月に開校した守口市の公立義務教育学校である。夜間学級も設置しており，学校には6歳から80歳代までの児童・生徒が通っている。前期課程と後期課程の教職員は同じ職員室で過ごし，校務分掌組織や会議も一つである。学校教育目標は，「自らを高め 共に学び共に育ち たくましく未来を切り拓く児童生徒の育成」である。9学年一貫した学習指導として，「学習のねらいの明確化」や「キーワードを使ったふりかえり活動」を教科・学年を問わず共通してどの授業でも行っており，全教職員は小グループに分かれ，そのグループを中心とした授業づくりを日々行っている。令和3年度は大阪府教育庁による，スマートスクール実現モデル校としての取り組みも加わり，授業や家庭学習で，市から児童・生徒に貸与されているiPadを積極的に活用していく方向が，年度当初に確認された。

３．研究計画

学校実習の目的は大きく 2 つ設定した。それは，数学授業での ICT 活用（特にタブレット端末の活用）・校内 ICT 教育目標の見直しの 2 つの研究である。令和 3 年 11 月までの学校実習の機会は，数学の一教員として，現任校の先生方と同じように，授業実践を中心に，生徒用タブレット端末を活用した授業づくりの研究に努めた。その後，11 月に ICT の学習活用に関する実態調査アンケートを行い，その実態から，次年度に取り組むべきことを整理し提示しようと考えた。

４．数学科授業の題材開発

実践授業，対象学年の生徒は，数学に苦手意識を強く持つ生徒たちである。数学の授業では，授業の始めに前時の復習として，解説をしながら宿題の答え合わせをするのが通例であったが，その時の様子を見ていると，うまく機能していないと感じることが多く，この授業始めの時間をもっと有効に活用できないか，と考えるようになった。そこで，宿題を無しにして小テスト方式にする・プリントを紙ファイルに綴じる方法から写真に撮ってフォルダに整理する，というように授業方法を変えようと考えた。

５．授業実践内容と考察

試行・改善を経て，授業中に iPad を使うことが定着した 2 学期末に生徒対象の教科アンケートを実施した。令和 2 年 12 月と令和 3 年 12 月の調査結果を比較すると，「数学の勉強は楽しい。」の肯定的回答率は 28.6%から 53.5%，「数学の内容はよくわかる。」の肯定的回答率も 47.6%から 60.4%と共に上昇が見られ，ある程度，生徒の意欲・意識改善につながる授業改善ができたのではないかと考えることができた。

６．情報活用能力育成のための実態把握と課題整理

生徒及び教職員を対象に，ICT 利活用に関わる各種調査を実施し，課題の抽出及び整理を行った。その結果，情報活用能力の育成には，「ステップごとの校内 ICT 活用到達目標の見直し」，「校内の教職員全員による，具体的 ICT 活用内容の共有」，「学年ごとの詳細な ICT 活用実態把握」などの課題が関連していることが明らかになった。教育の情報化に関わる課題の整理と見える化を行ったことで，学校現場の実態に即したかたちで，GIGA スクール構想を見据えた体制の土台作りに重要となるスモールステップを提示することができた。

７．研究の成果と今後の課題

授業実践からは，数学の学習に対する生徒の興味・関心や，授業への参加意識の高まりを見ることができた。これらは単に ICT 機器を使った効果というものではなく，毎日授業を振り返り，悩みながら共に指導をする先生方と教材研究・授業改善を重ねてきた結果であると考える。

情報活用能力を育成するための年間スケジュール例や，ICT学習用ツール活用目標等は，今後，その時点での状況に応じて改良を重ねていくことが必要である。重要なのは，目標達成に向けて教科等横断的な視点で全教職員が取り組むこと，継続して実態調査に取り組むこと，さらに情報活用能力は「学習の基盤となる資質・能力」の一つであるという認識のもとに全校的・組織的に共通理解を深めて実践していくことである。